

句歌で巡る
野田

22

若山 牧水

わかやま ぼくすい



若山 牧水(1885～1928)

旅を愛し、旅に明け暮れた若山牧水は、生涯に8,700首の短歌を詠み、また、全国に、300基以上の歌碑が建てられるなど、日本で最も著名な歌人のうちのひとりです。

牧水は宮崎県東臼杵群東郷村(現在の日向市)で、祖父の代から続く医者之家に生まれましたが、幼少期は読書や自然の中での遊びに熱中していました。

一方、中学3年生の時に初投書した文学雑誌に当選するなど、文才に恵まれていたようです。その後、文学に専念するために入学した早稲田大学では、後の歌人人生に大きな影響を与える恋愛を経験します。

しかしながら、情熱的な恋はやがて破局し、牧水はひどく消耗しましたが、その心の内をつまびらかにした歌集「別離」が好評を博し、一躍注目の歌人となりました。

その後、同じく文学を愛する太田喜志子と熱烈な恋愛の末に結婚した牧水は、自然主義文学を代表する歌人として成長していきます。

昭和2(1927)年、牧水夫妻が朝鮮(現在の韓国)へ揮毫の旅に出た際、京城(現在のソウル市)で夫妻を自宅に宿泊させたり、歓迎会や講演会などの開催に貢献したのが市山盛雄(1897～1987)でした。

当時、野田醤油(現在のキッコーマン)株式会社京城支店の代表者だった市山が牧水に依頼し、野田醤油のために揮毫してもらったのが表題の句とされています。

市山は、野田醤油株式会社で人事部長や常務取締役直属といった重職を歴任する一方で、郷土史家や歌人としての顔を持ち、野田の郷土史や醤油、勤務地であった朝鮮の民謡などについての著作があります。

現在、歌碑はキッコーマン株式会社研究開発本部敷地内にあります。キッコーマン創立50周年の節目に建立(昭和44年11月14日)されたようですが、記念歌碑の実現には、市山の尽力が大きかったとされています。(文中敬称略)

【取材協力】キッコーマン株式会社

【肖像写真】若山牧水記念文学館

【参考文献】若山牧水 日本文学アルバム23(横田正知・株式会社筑摩書房)／牧水・朝鮮五十七日間の旅(上杉有・株式会社アイオーエム)

おのづからよろづの味のもととなる
亀甲萬のむらさきぞ濃き

明治18(1885)年 8月24日、宮崎県東臼杵群東郷村(現在の日向市)に生まれる
明治41(1908)年 早稲田大学英文科卒業
明治41(1908)年 第一歌集「海の声」発表
明治42(1909)年 中央新聞社に入社するも5か月後に退社
明治43(1910)年 編集者として雑誌「創作」を創刊
明治43(1910)年 歌集「別離」を発表
明治45(1912)年 太田喜志子と結婚
大正9(1920)年 千本松原の景観を気に入り静岡県沼津市に転居
大正15(1926)年 文芸雑誌「詩歌時代」を創刊
昭和3(1928)年 9月17日、43歳で永眠



キッコーマン株式会社の敷地内にある記念歌碑
(現在は非公開です)